

商品名 セフポドキシムプロキセチル錠100mg「JG」 添付文書情報

一般名	セフポドキシム プロキセチル100mg錠	薬価	28.10
規格	100mg 1錠	区分	
製造メーカー	長生堂製薬	販売メーカー	長生堂製薬 日本ジェネリック
薬効	6. 病原生物に対する医薬品 61. 抗生物質製剤 613. 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの 6132. セフェム系抗生物質製剤		

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「JG」の用法・用量

通常、成人にはセフポドキシム プロキセチルとして1回100mg（力価）を1日2回食後経口投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には、1回200mg（力価）を1日2回食後経口投与する。

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「JG」の効能・効果

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管炎・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭炎・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、バルトリン腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎。

【効能又は効果に関連する注意】

〈咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎〉「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「JG」の有効菌種

セフポドキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ・カタラーリス（ブランハメラ・カタラーリス）、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属。

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「JG」の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) ショック（頻度不明）、アナフィラキシー（頻度不明）：ショック、アナフィラキシー（血圧低下、不快感、口内異

常感、喘鳴、めまい、便意、耳鳴、発汗、発疹等）を起こすことがある。

- 2) 中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis : TEN）（頻度不明）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）（頻度不明）。
- 3) 偽膜性大腸炎（頻度不明）：偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（初期症状：腹痛、頻回の下痢）があらわれることがある。
- 4) 急性腎障害（頻度不明）：急性腎障害等の重篤な腎機能障害があらわれることがある。
- 5) 間質性肺炎（頻度不明）、PIE症候群（頻度不明）：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等を伴う間質性肺炎、PIE症候群があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 6) 肝機能障害（頻度不明）、黄疸（頻度不明）：AST上昇、ALT上昇、 γ -GTP上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがある。
- 7) 汎血球減少症（頻度不明）、無顆粒球症（頻度不明）、溶血性貧血（頻度不明）、血小板減少（頻度不明）。
- 8) 痙攣（頻度不明）。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（0.1～2%未満）発疹、（0.1%未満）そう痒、発熱、（頻度不明）蕁麻疹、紅斑、リンパ腺腫脹、関節痛。
- [2] 血液：（0.1～2%未満）好酸球増多、（0.1%未満）血小板減少、（頻度不明）顆粒球減少。
- [3] 肝臓：（0.1～2%未満）AST上昇、ALT上昇、ALP上昇、LDH上昇、（頻度不明）肝機能障害。
- [4] 腎臓：（0.1～2%未満）BUN上昇、（0.1%未満）血中クレアチニン上昇、（頻度不明）血尿。
- [5] 消化器：（0.1～2%未満）下痢、胃部不快感、悪心、軟便、胃痛、食欲不振、（0.1%未満）嘔吐、腹痛、便秘。
- [6] 菌交代症：（0.1%未満）口内炎、（頻度不明）カンジダ症。
- [7] ビタミン欠乏症：（頻度不明）ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症、出血傾向等）、ビタミンB群欠乏症状（舌炎、口内炎、食欲不振、神経炎等）。
- [8] その他：（0.1%未満）めまい、頭痛、（頻度不明）浮腫、しびれ感。

セフボドキシムプロキセチル錠100mg「JG」の使用上の注意

【禁忌】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

【重要な基本的注意】

1. 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
2. ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。
3. 急性腎障害等の重篤な腎機能障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. セフェム系又はペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者（ただし、本剤に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと）。
2. 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者。
3. 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、全身状態の悪い患者：観察を十分に行うこと（ビタミンK欠乏症状があら

われることがある）。

【腎機能障害患者】

- 1) 高度腎機能障害のある患者：投与量・投与間隔の適切な調節をするなど慎重に投与すること（本剤は腎排泄型の抗生物質のため排泄遅延が起こる）。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること（ヒト乳汁中へ移行する）。

【小児等】

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

【高齢者】

次の点に注意し、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。・ 生理機能が低下していることが多く副作用が発現しやすい。・ ビタミンK欠乏による出血傾向があらわれることがある。

【相互作用】

2. 併用注意：アルミニウム含有の制酸剤＜服用＞又はマグネシウム含有の制酸剤＜服用＞〔本剤の効果を減弱させることがあるので、同時に服用させないなど慎重に投与すること（機序は不明であるが、本剤の吸収が阻害されとの報告がある）〕。

【臨床検査結果に及ぼす影響】

1. テステープ反応を除くベネディクト試薬、フェーリング試薬による尿糖検査では偽陽性を呈することがあるので注意すること。
2. 直接クームス試験陽性を呈することがあるので注意すること。

【適用上の注意】

1. 薬剤交付時の注意：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある）。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.